

協会ニュース 魅力てんこ盛りの美原区

1	2016年(平成28年)	8月号(231号)	徳井秀雄	①魅力てんこ盛り美原区
2	2016年(平成28年)	9月号(232号)	平方秀行	②魅力てんこ盛り美原区
3	2016年(平成28年)	11月号(234号)	岡崎形成	③美原区八景
4	2017年(平成29年)	1月号(236号)	江川栄一	④中世の城砦
5	2017年(平成29年)	3月号(238号)	徳井秀雄	⑤河内鋳物師発 祥の地
6	2017年(平成29年)	5月号(240号)	平方秀行	⑥菅生神社
7	2017年(平成29年)	7月号(242号)	平方秀行	⑦動物と出会える農芸学校
8	2017年(平成29年)	9月号(244号)	平方秀行	⑧丹比神社
9	2017年(平成29年)	11月号(246号)	江川栄一	⑨船戸池公園
10	2018年(平成30年)	1月号(248号)	岡崎形成	⑩堺市立みはら歴史博物館
11	2018年(平成30年)	3月号(250号)	徳井秀雄	⑪照林寺

## 魅力てんこ盛りの美原区①

[徳井秀雄]



1ヶ月前ほど前に、大保寿栄会会長で鑄物師の産土神・鍋宮大明神記念碑等奉賛会代表の光田榮宏さんの講演を聞く機会があった。「河内鑄物師と周辺の話題」や「梵鐘の鑄造」の話では、朝廷に献上した鉄灯籠で諸役の免除、そして様々な特権を得ていたこと。また、鑄型に適した造形性・耐火性・通気性のある鑄物土が、美原区の平尾山、羽曳野丘陵で採取されることから、この地(美原区)が河内鑄物師発祥の地となった要因の一つであると語られた。次に「梵鐘の功德と鐘伝説」に於いては除夜の鐘での人間の煩惱や来世のお法雲寺総門話、合図の鐘では明け六つ・暮れ六つの時鐘等のお話があった。

日本国中に優れた鑄物技術を伝えた河内鑄物師の歴史に魅了され、1000年の時を感じながら帰宅途中、ツツジで有名なお寺「法雲寺」のご住職に出会いご挨拶を交わした。「おおー、美原にはまだまだあるじゃないか」本殿には3,333体ものご仏像があり、江戸時代からの寺院で、黄檗宗の建築様式は全国的にも数少ないお寺である。他にも5世紀中頃築造された周庭帯があり、24領の甲冑が発掘された黒姫山古墳、薬師如来を祀り乳薬師の平松寺、時宗の照林寺、天兒屋根命・菅原道真を主神とする菅生天満宮(菅生神社)、他にも多数の仏像、絵画などの見どころがある事を思い出した。そしてなんとといっても自然が多く、標高50m程のところからの見晴らしもバツグンである。

昨年、協会創立20周年記念でバスツアーを企画し、美原区を中心にお客様をご案内したことがあった。楽しく良い経験をさせていただいた。今後も美原区民として地元の魅力を伝えよう、そして、多くの観光スポットを広く発信していきたいと、更に、熱い思いを抱いております。さあお客様、バスツアーで美原区へ行きましょう。

## 魅力てんこ盛りの美原区②

[平方秀行]

私は富田林の住人ですが、「魅力てんこ盛りの美原区」の観光スポットの紹介する機会を得ましたので、案内させていただきます。

美原区は観光ポイントが少ない、交通の便が悪いと思われるがちですが、美原区には堺市博物館と並ぶ立派な「M・Cみはら」があります。「M・Cみはら」って何?そうです、「堺市立みはら歴史博物館」です。博物館入口前の鐘楼には“平成の梵鐘”が吊下げられており、また、徒歩5分程度の所に、あの有名な周庭帯のある黒姫山古墳もあります。館内は歴史遺産である中世の鑄造技術者集団「河内鑄物師」や24領の鉄製甲冑が出土した「黒姫山古墳」をメインテーマとした展示とミニ展・特別展が開催され興味深い内容になっています。聞いたところによりますと、展示している鉄製甲冑は、本物でレプリカではないらしいです。「必見の値打ちがありますよ……」。また、文化・芸術に触れ、交流できるホールとの複合施設です。つまり、愛称の「M・Cみはら」は、Museum(博物館)とCommunity(交流)をイメージしたものです。館内には河内鑄物師の顔出パネル、学童向けの古墳パズルや歴史博物館クイズもあり、結構楽しめます。8月25日(木)には小学5~6年生を対象に、「夏休みわくわく工作講座~作ってみようエコカー~」が開催されました。「M・Cみはら」は、家族で足を運び楽しんでもらえる施設でもあります。美原区のNPO法人堺観光ボランティア協会の会員は少数ではありますが、今後も美原区の会員皆が協力して「魅力てんこ盛りの美原区」の観光スポットを継続して紹介できたらと思っています。



## 魅力てんこ盛りの美原区③ 美原八景

[岡崎形成]

美原区八景として、チラシが配られていました。

1 法雲寺 2 広国神社 3 平松寺 4 みはら歴史博物館 5 黒姫山古墳 6 丹比神社 7 菅生神社 8 鍋宮大明神

そのチラシの一つで、「知る人ぞ知る」法雲寺を案内します。法雲寺の前身は、弘法大師の創建を伝えられる長安寺で、七堂伽藍が完備した真言宗の大きな寺院でしたが、元和6(1620)年に狭山池の堤防が決壊し、ことごとく流失して廃滅しました。寛文11(1671)年、僧宗月が霊夢を見て地中から観音様を掘り起こし、草庵に安置して多くの人々の信仰を集めていましたが、翌年、黄檗宗三傑の一人、慧極道明禅師によって、寛文12(1672)年に開山された禅宗の一派黄檗宗の本山格のお寺で1万坪の境内には山門、天王殿、大殿、開山堂、耀先殿、方丈、鐘楼などがあり、建築当初の伽藍構成を今に残し、大殿には3,333体の仏像が金色に燦然と輝き安置されています。お盆の8月15日の万灯会には、万物の霊に灯火をささげ無病息災を祈る伝統行事で願いを込めた千基にのぼる灯籠にろうそくがともり、境内に幻想的な雰囲気をもたらします。近くの人々は「ほんじんさん」と呼び、盂蘭盆施餓鬼法要は「ほんじんさんまいり」と言われ親しまれています。

また、市の花木であるツツジの名所としても有名で、広い敷地に1,000株近くの赤、白、ピンクのツツジが咲き、見頃の4~5月には、1日1,000人以上の人が訪れ、その景観は「花咲けばツツジの海」と言われるほどの豪華絢爛です。

2017年(平成29年)1月号(236号)

## 魅力てんこ盛りの美原区④~美原区域の中世の城砦

[江川 栄一]

この記事を書くにあたって、周辺地域を歩き廻っていたところ、「平尾城址」の石碑に出会った。場所は美原区平尾の太成学院大学の近くである。

「平尾(ひらお城)は1332年に楠木正成が築いた城塞で、別名「ねはん城」とも呼ばれている。1382年に正成の三男、正儀が北朝方の山名氏に敗れ、1388年にその子正勝が足利義満を攻撃したが、逆に山名氏清に討たれた古戦場に建っていた。今は石碑が一つたただけだが、悲劇の武将を今に語り伝えている。鎌倉時代の終わりから南北朝時代にかけて、美原には様々な城が造られた。天守閣を持つ大規模な城ではなく、防御のための木の柵や土を盛り上げた土塁を築き、簡単な住居が建っている程度の城である。

●「余部(あまべ城)平地の建物の周囲に濠をめぐらした城館である。余部地区には、今も「城ノ山」「城ノ前」などの字名が残っている。

●「城岸寺(じょうがんじ城)楠木氏の一族である和田和泉守が居城を構えた、別名「大饗城」とも言う。1351年に楠木正儀が北朝方と戦った古戦場である。周辺には「城ヶ池」「城ヶ岸」「城ノ北」などの地名が残っている。

●「丹南(たんなん城)南北朝時代に城砦として利用されていた黒姫山古墳。

●「徳専寺

(とくせんじ城)織田信長の河内攻めによって破壊された城で、美原区多治井にあった。室町時代から戦国時代にかけて、美原には城塞・城砦とされる場所が多く点在しており、中世動乱期の南河内における歴史舞台の一地域であったことがわかる。



## 魅力てんこ盛りの美原区⑤ 河内鑄物師発祥の地

[徳井 秀雄]

河内鑄物師が文献に見られるのは、「高野山奥院興廢記」に白河院 白河天皇が 1086 年、上皇となり初めて院政を開いたが、河内国住人、能登介時貞に 1091 年「高野山奥院廟堂鉄宝 塔」を作らせたと見えるのが最初である。

鑄物師の産土神は、鍋宮大明神もとは烏丸大明神と言ったようで、明治期の「由緒調査書」 光田榮宏家文書 に「烏丸神社一名鍋宮」とある。明治 28 年の「取調書」 光田榮宏家文書 には、祭神は鑄物師の始祖とされ、鏡作りの神、石凝姥命・天兒屋根命・猿田彦命・鍋作りの始祖「鍋子丸」の四柱と言われている。また、大保村に 3 坪程度の社殿があったが、1873 年に神社統合施策により大保村の八阪神社に合祀され、1908 年に八阪神社ともに広國神社に統合されたという。そして、1790 年の「大保村 絵図」 東京都立中央図書館 には烏丸大明神の社殿が描かれている。

烏丸大明神の創祀年代は不明であるが、1071 年に書かれたという「烏丸大明神縁起」 光田榮宏家文書 によれば、金山彦の子「火雷 ほのいかずち」を祀るものであったが、後三条天皇が、羽曳野市の誉田八幡宮に参詣した際、供奉した烏丸大納言が、ここを宿所としたため、その法者 報謝力 として金山彦命を勧請したという。

金山彦命は、金属全般の生産神であり、特に鑄造に関係あったらしいと言われており 窪田蔵郎氏の鉄の民俗史、また、その子である、「火雷」も金属加工に関係のある神であったと考えられる。さらに、1801 年刊行の地誌「河内名所絵図」によれば、「河内鍋古跡」の項目に、大保村にて、多く鍋・釜を鑄造し、諸州で商ったとあり、今は絶えてなし、とある。その河内鑄物師発祥地には、「日本御鑄物師発祥地」の石碑があり、その石碑は、重要無形文化財保持者 人間国宝 角谷一圭書によるもので、鍋宮大明神記念碑等奉賛会が昭和 53 年 10 月に設置し、その碑文には、「この地は、鍋大明神神域の一部であって史跡地として 昭和 44 年 10 月 地元民によって石碑を設置し、永久に記念したものである。等々」と書かれている。

更に、その奥には、「旧跡 鍋宮大明神」と書かれた大きい石碑があり、その左前に「雨ぐもの月や大保の鍋の尻 器水」の句碑 昭和 58 年 10 月 美原町郷土研会建立 と「大保千軒之碑」とがあり、「大保千軒之碑」の側面には「大保村の鍋宮大明神は鑄物師の産土神なり」とあり、裏面には「大保村を中心に美原町周辺で多種多様の鑄物製品を全国に供給し繁栄した」とその様子が記されている。美原町史・光田氏談による鍋宮大明神記念碑地は、見過ごしてしまうほど狭い所ですが、見学するに十分 値する、美原区の観光資源の一つと思う。



## 魅力てんこ盛りの美原区⑥ 菅生神社

[平方秀行]

今回は美原区南部に位置し、堺市東区や大阪狭山市に隣接する菅生神社を紹介致します。

中高野街道と和泉街道が交差する東野には石の鳥居と道標があり、大きく「当社菅生天満宮」と書かれています。また、道標の北面に「三日市、高野山」、南面に「大阪天王寺、平野総本山」とあり、中高野街道を示すものです。聞くとところによると、この鳥居から本殿までの道程が参道となっていたようです。菅生の地名は、この辺りは沼地が多く、菅(すげ)が一带に生えていたので菅生(須加不)と称されていました。天兒屋根命(あめのこやねのみこと)を祖とする中臣



(なかとみ)の一氏族が、この菅生の地に本拠を構え、菅生と名乗りこの地域を支配し、菅生朝臣(すごうあそん)が祖神である天兒屋根命を氏神として祭祀したのが菅生神社の創始です。

建武年間(1331~1338)、暦応年間(1338~1341)に二度の兵火により、社殿・什宝ことごとく焼失したため沿革は明らかでないが、「新抄格勅符抄(しんしょうかくちよくふしょう)」によれば、764年に菅生神に河内国で封(ふ)「一戸」を奉られたとあります。

本殿は万治4年(1661年)の建立、正面柱間7尺の間社春日造(いっけんしゃかすがづくり)で正面に軒唐破風をつけ、屋根は檜皮葺です。これらは学術的見地から重要なものであると認められ、平成18年(2006年)、堺市の指定有形文化財として指定されました。

かつて菅生神社は京都や大阪の信奉者をもち、「河内名所図会」(享和元年・1801年)にも掲載されており、社殿配置が変わらず当時の景観を保っていることがわかります。



菅生神社には

- ・北野天神縁起絵巻3 卷応永34年(1427年)
- ・菅生宮并高松山天門寺縁起絵巻2 卷延宝8年(1680年)
- ・三十六歌仙図扁額35面など多数の宝物があります。北野天神縁起絵巻の奥書によれば、菅原道真公が境内の「菅澤」のほとりから、こつぜんと誕生されたという描写があります。室町時代に天神信仰(菅原道真公を神格化した)が盛んになり、江戸時代には天神が主神の座を占め、菅生天満宮と呼ばれるようになりました。

現在は、「学問の神さま」として親しまれています。境内には直径5 疔ほどの「菅澤」が残っており、その石碑も見られます。

## 魅力てんこ盛りの美原区⑦ 動物と出会える農芸高校

[平方秀行]

5月2日(火)に実施した「農芸高校ふれあいの旅」バスツアーに、企画段階から携わっていたこともあり、大阪府下では珍しく動物と触れ合うことが出来る農芸高校のことをもう少し詳しく紹介します。

農芸高校は、約90,000㎡におよぶ広大な校地に28種類の動物を飼育し、付属農場には多彩な温室や最新施設の牛舎、植物工場、各種実験室など



新しい農業に対応する施設が整備されて

います。現在、ハイテク農芸科、食品加工科、資源動物科のいずれも特色ある3つの学科を設置し、生命や自然の尊さ、人と環境の大切さを学んでいます。

私が農芸高校に関心を持つようになったのは、昨年11月に開催された「農芸祭」でした。当日は、6,000名以上の大勢の人で賑わいをみせ、生徒が育てた野菜や手作り菓子の販売や動物とのふれあいなど様々なイベントが行われていました。私もいちごジャムやクッキーを購入し、生徒たちの活動発表を見学しました。これは我々観光ボランティアとコラボレーションすれば面白いと思いました。この日は竹山市長も来校され、生徒と懇談するなどして交流を図られていました。農芸高校は、外部機関との連携にも積極的に取り組んでおります。地域の小中学生を学校に招いたり、出向いての食育教育活動やふれあい動物園活動、地元堺市の保育園、幼稚園、小中学校への花の配布活動、美原地区のまちづくり活性化への積極的な協力参加を行っています。さらには、農芸高校産の豚肉を「のうげいポーク」として「大阪産(おおさかもん)」への登録や「のうげいポークカレー」などの商品化も行っております。



農芸高校は、今年創立100周年を迎えます。これを機に様々な事業を展開しています。インテックス大阪で開催された食博では、生徒たちが食育セミナーを開催し大いに成果を上げました。最も農芸高校らしい事業は、正門の横にアルパカやヒツジの動物展示エリアとして百年の丘を新設することです。秋のオープンを目指し新しい試みを展開中です。我々も農芸高校と連携することで魅力ある美原区の情報発信をしようと思っています。

←堺在住の彫刻家岩田千虎氏(故人)作の「牛像」があります

## 魅力てんこ盛りの美原区⑧ 丹比(たんび)神社

[平方秀行]

今回紹介します「丹比神社」は、美原八景や名所15選にも選ばれている多治井地区に鎮座する延喜式内社であります。延喜式内社とは10世紀前半に編纂された延喜式神名帳に記載されている神社で、美原区内には丹比神社のほかに菅生神社、櫛本神社があります。



丹比神社は、戦前までは広大な神域を有していましたが、戦争中に開発され、往時の面影を失いました。丹比神社の創立年代は諸説があり一定しませんが、飛鳥時代前後と言われています。丹比

神社、丹比廃寺跡、黒姫山古墳を結ぶ一帯は丹比氏族の本拠地であって、この氏族によって氏神として祭祀されたものです。祭神については、最初、丹比連(たじひのむらじ)が祖神・火明命(ほあかりのみこと)を祭祀したことは明らかで、その後、宣化天皇から出た丹比真人(たじひのみひと)の時代になって、その祖を合祀しました。丹比神社の北には竹内街道、西には丹比大道が走り、文化・交通の要衝でありました。参道は先の大戦までは神社から多治井の集落に至る約500mは松並木が立派で「陸の天橋立」と称賛され、馬場先と呼ばれました。(参道は多治井の先にある東除川まで続いていた

という話もあります。)昭和40年頃に松から桜に植え替えられ、参拝者から桜のトンネルとして愛されました。今は舗装された参道に変わっています。この真直ぐに向かい合った長い参道は全国的にも珍しく、絵師・小泉斐(こいずみあやる)が掛け軸に描いています。また、明治18年の古地図にも当時の参道と思われる道筋の形跡が記されています。



境内には第18代反正天皇(多遲比瑞齒別命)がご誕生の際、産湯をお使いになられたという井戸があります。多遲(タチ=いたどり)の花がたくさん咲いて産湯の中にこの花がこぼれ散ったため、この地を「たちひ(多遲比)野」と呼ぶようになったそうです。現在では字を読みやすいように改めて多治井となりました。その時代では丹比神社も多遲比神社(たちひのじんじゃ)と呼ばれていました。

また、反正天皇が、父である第16代仁徳天皇の死去を悲しんで建立された五輪塔(夜泣き石)があります。これ

には逸話があるようです。その昔、大酒飲みがこの石を自分の家へ持ち帰り漬物石に使用したことがあり、夜中になると「帰ろう、帰ろう」と石が泣いたので元のこの地に返したということです。それ以来この石は、夜泣き石と呼ばれるようになりました。現在では、夜泣きのひどい赤ちゃんがお参りすると夜泣きがよくなるという言い伝えがあります。

その他に境内には第17代履中天皇の歌碑が建立されております。古事記によると、履中天皇が弟の反乱(墨江中王の乱)にあい難波宮から大和に逃げ落ちるとき、この地に通りかかって詠まれたものとされています。

『丹比野に寝むと知りせば防壁(たつごも)も持ちて来ましもの寝むと知りせば』

本殿裏には樹齢1000年に近いご神木(楠)があります。また、境内北側入口には、二本の楠が寄り添い立っており、上の方で結ばれているように見える為、縁結びの木として親しまれています。

## 魅力てんこ盛りの美原区⑨ 舟渡池公園～

[江川 栄一]

美原区には、昔から緑の青々とした平坦地が広がり、ため池が数多くありました。「美原」という町名には、いつまでも美しい環境を保った町であってほしいとの願望が込められているそうです。

美原区の中で最大のため池が舟渡池で、面積が10haあります。池の名前の由来は、昔はこの辺り一帯が湿地帯で、交通手段として舟を利用していた名残りが伝えられています。桃山時代に狭山池の普請があり、片桐

且元が普請奉行をしていた頃に、工事人夫達が舟渡池を舟で渡った後に、菅生(すごう)社の宮山を歌いながら通ったことが民謡に残っています。「さんざ狭山のご普請もて、菅生の宮山歌で越す」

昭和57年に舟渡池の南岸に美原区最初の都市計画公園として、舟渡池公園(面積2ha)が整備



舟渡池公園

されました。広大な面積の中に自然を多く取り入れ、四季折々の風景が楽しめ、野鳥も観察できる公園になりました。アラカシ、シイ、桜など7,000本以上にのぼる花木が植えられ、春から夏にかけて咲き誇る菖蒲が有名です。アオサギやマガモ、カワウ、ヒヨドリ、メジロなどの野鳥が20種類以上生息しています。平成元年には「大阪緑の百選」にも選ばれた緑豊かな公園で、人々に憩いと潤いを提供しています。園内の遊歩道は散歩やジョギングをしている人が多く見られ、設置されているアスレチック施設を利用して健康的な運動をしている人もいます。バーベキューができるエリアも整備されているので、休日はたくさんの家族連れ賑わっています。

これから冬のシーズンになると渡り鳥が多く飛来します。ぜひ一度お越しいただき、バードウォッチングを楽しんでみては如何でしょうか。



舟渡池

された。広大な面積の中に自然を多く取り入れ、四季折々の風景が楽しめ、野鳥も観察できる公園になりました。アラカシ、シイ、桜など7,000本以上にのぼる花木が植えられ、春から夏にかけて咲き誇る菖蒲が有名です。アオサギやマガモ、カワウ、ヒヨドリ、メジロなどの野鳥が20種類以上生息しています。平成元年には「大阪緑の百選」にも選ばれた緑豊かな公園で、人々に憩いと潤いを提供しています。園内の遊歩道は散歩や

## 魅力てんこ盛りの美原区⑩ —堺市立みはら歴史博物館— [岡崎 形成]

特別展「河内鑄物師の誇りⅣ—鎌倉大仏の鑄造と東国の鑄物師—」見学記

先日、我が家の近くの堺市立みはら歴史博物館に足を運びました。今回は常設展の隣に特別展が開催されています。

我が国の鉄や銅（青銅）の歴史で欠くことの出来ない事柄に「河内丹南の鑄物」があり、時代的には相当古くから、そして背景には渡来系の人達の技術が関与していたと思われる。明確には鎌倉時代以降は我が国の鑄物師の大多数は河内鑄物師が占め、丹南郡一帯に居住し、当時の朝廷の格別の庇護のもとに数々の特権が与えられ隆盛を極めていた事が知られています。

堺市美原区大保には、鑄物師達の崇拝している鍋宮大明神が鎮座しておられ、多種多様の鑄物を製造した遺跡と出土物・数々の由来書などの古文書も現存しています。

現在全国の鑄物生産地において、鑄物師発祥の地をたどりますと、殆どが河内丹南大保（堺市美原区大保）の出身である事が判り、我が国の鑄物師発祥地である事はまぎれもない事実であることが判ります。

今回の特別展でも、鎌倉時代を中心に河内鑄物師達が鎌倉大仏の鑄造を機に東国に進出し、その後も進出は続き、後に鑄物師たちは東国に永住し、関東の鑄物師として活躍したと考えられること等が解かりやすく解説されています。そして、展示されているものの中には現存するものや梵鐘のレプリカなどがあり、発掘調査された時に出土された鑄型や窯跡の現物や写真が展示されています。鎌倉大仏を鑄造した鑄物師の丹治久友が大仏を鑄造した鑄物師の一人であることがわかります。また出土した梵鐘のなかに物部姓鑄物師（河内鑄物師とつながると考えられる代表的な東国の鑄物師）と河内鑄物師の作風に共通した部分が多くみられます。今回の特別展では、鎌倉大仏の鑄造にたずさわった河内鑄物師を、そして東国で活躍した河内鑄物師の跡を、関連のある鑄造遺跡の出土品からたどっています。特別展は、1月28日(日)までですので、是非、ご観覧をお薦めします。



般若寺梵鐘（複製）  
土浦博物館蔵

※「鑄物発祥の地と鍋宮大明神 大保千軒鑄物師のふる里」（鍋宮大明神記念碑等 土浦博物館蔵 奉賛会）、堺市立みはら歴史博物館 特別展「河内鑄物師の誇りⅣ」パンフレットを参考にさせていただきました。

## ①魅力てんこ盛りの美原区～時宗のお寺「照林寺」

[徳井 秀雄]

金光山照林寺の宗派は、時宗で鎌倉時代の後半に、日本全国を巡り、遊行の旅にその生涯を任せた一遍上人を開祖とする宗派です。

一遍上人は1239年伊予 愛媛県松山市 の豪族河野家の次男として生まれ幼名は松寿丸と言ひ10才で仏門に入りました。12年間大宰府の聖達上人の元で学び一旦伊予に帰り 8年後に伊予を旅立たれ信州の善光寺での参籠さんろうにより「二河白道図」を自分の本尊とされ、人々への化益けやくを決心されました。1273年菅生 愛媛県 の岩屋寺での参籠さんろうを経て遊行の旅に出られました。北は奥州江刺から南は薩摩まで約16年間に渡って「一所不住」の遊行をし「南無阿弥陀仏」と書かれた念仏札を配る賦算 ふさんと「踊り念仏」を広めました。その様な姿から一遍上人は、「捨聖」・「遊行上人」と呼ばれます。



堺には照林寺・永福寺の二寺しかなく大変珍しい宗派の寺院です。現在の住職さんにお聞きすると、「照林寺の創建の時期や謂「照林寺の創建の時期や謂れれ((いわいわ))は不明ですが、本尊の釈迦如来坐像の形式が平安後期の特徴を備は不明ですが、本尊の釈迦如来坐像の形式が平安後期の特徴を備えている



みられるところから、その創設は、時宗の成立した鎌倉時代後期よりも古くなると思われます。また、現在の本堂は残されている棟札にす。また、現在の本堂は残されている棟札によると、よると、1694年照林寺二十一世の覚阿照光和尚によって再建されたもので建築の形は和尚によって再建されたもので建築の形は寄棟造りで、屋根は「しころ葺き」という珍しい形をしています。

照林寺の什物照林寺の什物((じゅうもつじゅうもつ))としては、「照としては、「照林寺逆修一結衆過現名帳」や「釈迦涅槃図」林寺逆修一結衆過現名帳」や「釈迦涅槃図」((写真写真))

「西国三十三観音図」などを所蔵しています。」とのことでした。

なお、今回をもちまして今回をもちまして「魅力てんこ盛りの美原区」「魅力てんこ盛りの美原区」は終了とさせていただきます。長い間のご愛読、ありがとうございました。